

一宮町長賞

さいとう ひろみ
齋藤 裕美

あなたへ 齋藤 裕美

北風が吹き荒れる庭で、紅梅が満開です。
見とれる私の心に春が近づいて来ます。
北国は猛吹雪「電車が立ち往生」と、ラジオのニュースが聞えます。
北東部「積雪の恐れあり」の天気予報。車の往来の少ないうちに、食料品を買いに。車の運転が苦手な私には大仕事。
あなたの写真に「無事帰れますように」と手をあわせます。
「困った人だ」と、あなたの心配した顔が浮かびます。
夕方、いわきの友人から絵葉書が届き、
昨日より雪、いわきの地 銀世界、
雪の降る町を思い出だけが通り過ぎてゆく...と
葉書きを手に、あなたと出会って五十年余りの日々。
唯一耳にした「雪の降る町」の歌声を気がつくと、ハミングしています。
あなたの思い出の歌だったのでしょね。
定年まで勤め、主婦として失格だったと反省しています。
あなたの助けで無事勤務できたと、感謝しています。
今は、あなたの職場での友達や、教え子の皆さんから手紙をいただいています。私の知らなかった一面がわかり、あなたの優しさや強い心を再確認して、うれしくなります。
晴耕雨読の毎日、肌もだいふ浅黒く、手もごつごつです。
立春をすぎるところ「ふきのとう」を見つけ、沈丁花の甘い香り、桜と咲きます。あなたの手作りの花木が一年中私を元気にしてくれます。
いつの日か、楽しいできごとを報告したいと思います。
ではまた...

(千葉県／73歳)

社会福祉法人愛の友協会